

大会名 Competition	第72回秋田県高等学校総合体育大会 バスケットボール競技【女子決勝】
NO. M 3	Year Month Day Time 2026年 6月 8日 12:15
場所 Place	CNAアリーナあきた



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チームA 湯沢翔北 75 ○	<table border="1"> <tr><td>17 1st</td><td>18</td></tr> <tr><td>20 2nd</td><td>15</td></tr> <tr><td>13 3rd</td><td>15</td></tr> <tr><td>25 4th</td><td>11</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	17 1st	18	20 2nd	15	13 3rd	15	25 4th	11	OT		チームB 秋田中央 59 ●
17 1st	18											
20 2nd	15											
13 3rd	15											
25 4th	11											
OT												

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	名和	真緒里 CAP	14	0	6	2	1	4		齋藤	音々	-	-	-	-	-
5	×	須田	緑	4	0	2	0	0	5		渡辺	弥親	-	-	-	-	-
6	/	戸村	のどか	2	0	1	0	0	6		菅	茉惟	-	-	-	-	-
7	×	戸堀	愛花	8	0	4	0	3	7	/	赤沼	雅桜	5	1	1	0	1
8	×	石川	美羽	0	0	0	0	0	8	×	遠藤	真倅 CAP	28	1	10	5	1
9	/	田村	璃子	4	0	2	0	2	9		菊地	萌那	-	-	-	-	-
10	/	三森	美代	14	0	6	2	1	10		佐々木	杏奈	-	-	-	-	-
11	/	川辺	桃子	6	0	2	2	3	11		野呂	田唄	-	-	-	-	-
12	/	堀田	海空	19	1	7	2	2	12	×	小林	春陽	11	0	4	3	1
13	/	小野	緋花子	0	0	0	0	0	13	×	伊藤	乃愛	3	1	0	0	1
14		宇佐美	友彩	-	-	-	-	-	14	×	石垣	夢凜愛	10	0	5	0	1
15		齊藤	萌愛	-	-	-	-	-	15		岩谷	倅	-	-	-	-	-
16		鎌田	雫	-	-	-	-	-	16		赤沼	杏樹	-	-	-	-	-
17	×	佐藤	陽葵	4	0	2	0	2	17		齊藤	佳乃	-	-	-	-	-
18		小林	芽愛璃	-	-	-	-	-	18	×	熊谷	実鞠	2	0	1	0	-
19		阿部	千愛里	-	-	-	-	-	19		佐藤	里奈	-	-	-	-	-
20		小前	奈緒	-	-	-	-	-	20		藤田	璃音	-	-	-	-	-
21		小玉	夢来	-	-	-	-	-	21		齋藤	明夏	-	-	-	-	-
コーチ		樋渡	真						コーチ		門間	義範					
Aコーチ		齋藤	良樹						Aコーチ		鈴木	華音					
合計				75	1	32	8	14	合計				59	3	21	8	5

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P射撃 2P:2P射撃 FT:フリースロー F:ファウル

女子決勝は3連覇を狙う湯沢翔北と、3年ぶりの優勝を目指す秋田中央との対戦となった。決勝で両チームが顔を合わせるのは5年連続である。

第1Q、互いにマンツーマンでの激しい攻防が続き、1分間無得点であったが、秋田中央#8遠藤のミドルジャンパーを皮切りに試合が動き始めた。その後、秋田中央は#8遠藤の3P、#12小林の速攻で得点するが、湯沢翔北も負けじと#10三森の連続得点をきっかけに得点を重ね、その後は一進一退の展開となり、第1Qを17-18と秋田中央1点リードで終えた。

第2Q、最初のポジションで秋田中央#14石垣が左レイアップをねじ込むところからスタートした。湯沢翔北は、トラップディフェンスを仕掛け、一度はターンオーバーを誘い得点をするも、秋田中央のペネトレイトを止めることができず、#8遠藤・#7赤沼がレイアップ得点を重ね、19-28と秋田中央が一步リードする。しかし、湯沢翔北もトラップディフェンスが機能し始めると、自慢の脚力で秋田中央のボール運びにプレッシャーをかけ、10-0のランを作ることに成功。湯沢翔北#7戸堀が左レイアップを決め29-28としたところ、残り5:12で秋田中央がたまたまタイムアウトを要求した。しかし、その後も秋田中央は湯沢翔北の激しいディフェンスを振り切れず、残り4:18でタイムアウトを立て続けに要求。苦しい時間帯が続く秋田中央であったが、#13伊藤が3Pを沈め、秋田中央が息を吹き返し掛けたところをすかさず湯沢翔北がタイムアウトを取り、冷静に前半を終え、37-33と湯沢翔北4点のリードで折り返した。

第3Q、#8遠藤のゴール下からの得点で試合が始まった。秋田中央は#8遠藤・#12小林を起点に得点を重ね、湯沢翔北は#10三森が攻守にわたって躍動。しかし、残り3:23秋田中央#7赤沼が値千金の3Pを沈め、46-46と試合を振り出しに戻した。その後もお互いの激しい攻防が止まらず、湯沢翔北の最後のセットプレーを秋田中央が完璧に止め、50-48とする。

第4Q、お互いの強烈なポイントアタックとディフェンス・リバウンドが続くが、湯沢翔北#12堀田の連続得点と#4名和の1on1で得点を重ね57-52とし、残り7:55で秋田中央が後半1回目のタイムアウトを取った。タイムアウト明け後も、湯沢翔北は手を緩めず激しいディフェンスでミスを誘い、#10三森がゴール下を確実に沈め、リードを広げ続けた。秋田中央は残り3:43、2:37と立て続けにタイムアウトを取り、立て直しをはかるも、流れに乗った湯沢翔北の勢いを止めることはできず、75-59で湯沢翔北が勝利し、3連覇を飾った。

決勝までは3Pシュートを量産してきた両者だが、終わってみればこの試合では合計4本の3Pシュートしか許さないほど、互いにディフェンスの間合いがタイトで、非常に激しい攻防の試合であった。敗れた秋田中央も勇猛果敢に立ち向かい、最後まで闘い続けた。決勝にふさわしく、胸が熱くなる試合であった。